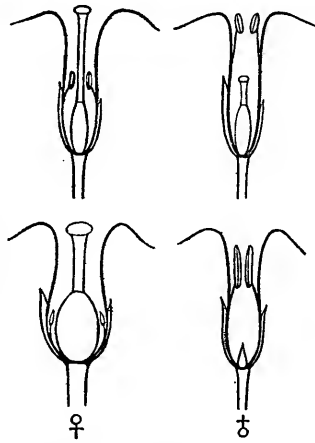


花莖は一つてひとさくらさい

(上) 櫻草ノ二形花 模型圖 (○) ハ雌花
(下) 二次的單性花 同 (△) ハ雄花



○花莖は一つてひとさくらさい

二形花ヲナシテ居ル、此ノ如キ形式ノ花ガ今一層進ンデ一方ハ雌藥ガ著シク小クナリ一方ハ雄藥ガ著シク小クナルト遂ニハ小クナリタル藥ハ最早ヤ能力ヲ失ヒ全ク退化シテ單性的ニ成ツテ了ツタノガ即チ二次的ノ單性花デアル、結局兩性花ガ交互受粉ヲ便宜ナラシメルタメニ二形花ヲ經テ單性花ニ化シタモノト考ヘラレル

茲ニ尙ホ疑問トシテ存スル單性花植物ノ群ガアル即チ蕁麻科、榆科、桑科、樺科、殼斗科、楊柳科ナドノ植物ガソレデアル是等ノ單性花ハ一次的ノモノカ將タ二次的ノモノカ甚ダ解釋ニ苦シムトコロデアル又禾本科中ノ單性花、莎草科中ノすげ屬 (Carex)、天南星科、棕櫚科ノ單性花ハ二次的ノ如クニ見エルガ其變化ノ道程ガ甚ダ判明シナイノデ將來ノ考究ニ殘シテ置ク

牧 野 富 太 郎

頃ハ大正十五年梅ノ花咲ク二月ノ頃ニ發行セル『山岳』第十九年第三號ニ裁判所ノ檢事ニデモ職ヲ奉ゼサセタラソレコソ持つて來イデ事件毎ニ成績ガ舉ガリ直グニモ檢事總長ニナレルト思ハル、笹魚生ト名ノレルゴ仁(司法大臣ニ會ッタラ一ツ推薦シテ見ヨウカナ)ガアツテ椽大ナ筆デ四方雜ギ倒シノ記事ガ載ツテ居ッテ私ハ面白イト頗ル興味ヲ以テ之レヲ讀ンダノデアルガ其中ニ「◇尤も、日本の植物學は、甚だ幼稚な現狀にあると見えて、専門家の筆に成つた書物でも、實物と大に齟齬した記事や圖が、平然と掲げてあるには、吾人素人

も大に驚かざるを得ない。最近の大著である『日本植物圖鑑』の如き、圖を生命とする書物でも、三色刷の美事な高山植物の口繪に、一株のナンキンコザクラから、二本の莖が立つて、その銘々が頂に數個の花を着けたのが描いてある。これ等は、怪し氣な教科書から寫したのではなくて、必ずや實物から寫生されたものであらうが、若し斯様なものがあつたとしたら、極めて珍らしい事である。ナンキンコザクラに限らずサクラサウの

武田久吉博士著 Notes on the Japanese Primulas (in Notes, Roy. Bot. Gard., Edinb., no. XXXVII. Nov. 1913.)
第二十四圖版、ひなごころ



Petermannavil

Oct. 1912

Primula nipponica
(China-zakura)

may 1910

類では、一株から一本より多く花莖が出ることは、あり得べきことでは無い。尤もユキワリサウの如きは、一株から二三本位出る様に見える事もないではないが、あれは前年の一株が枝を打つて、今年は二株にも三株にもなつたものが、コチャ／＼と固まつて居る故で、土を洗ひ落せば別々の株になるものだ。」^{八九頁}トアツテ私ニモちよつと来いヲヤラレテ居ル、サウナルト嫌デモ應デモ一度ハ呼ビ出シニ應ゼネバナルマイガ何か一ツ反證デモ舉ゲン限リ無事ニ閻魔ノ廳カラ身柄ヲ下ゲテ貰フコトガ出来ン、コレハほんまニ困ツタモンダナト思案投ゲ首ノ末辛フジテ思ヒ出シタノガ此處(前頁)ニ掲グル圖ナノデアアル此レハ雷名天下ニ隠レナキ羽柴筑前ノ守久吉様ト同名デ同ジク久吉武田ノ君トナン呼ビ參ラセル御方ノ堂々ト世界ニ發表セラレタ日本ノ櫻草ノ論文即チ Notes on the Japanese Primulas 殊ニこちと等ノヤウナ木ッ端武者ト違ッテ博士様ノお拵ヘニナツタ巨篇大作ノ中ニ在ルモノダカラゆめ間違ハナイモノデアアルト鬼ノ首デモ取ツタ氣持チ兎ニ角閻魔ノ前デ鬼ノ首ヲ取ツタトハ前代未聞ノ珍事コリヤ幸先キヨシト此ニ此ナ「極めて珍らしい」ノモ偶ニハアルト此反證ヲ掲ゲマシタガコレデ放免ニナレバ命拾ヒ、一時放免サレテモ更ニ控訴セラレントモ限ルマイガ、エーまゝヨ再ビンナ場合ニ出ツ食ハシタラ百年目其時キヤ又ソレ相當ノ知慧ガ出テ何ントカナラウカラサウ悲觀シタモンデチャーナイワネートかしこみかしこみ申さく

○ほていちくノ千筍ヲ造ル方法

熊本縣立人吉高等女學校 前 原 勘 次 郎

〔牧野云フ、肥後人吉町ニハ商店デ食料品トシテ干シタ筍ヲ賣ツテ居ルガ餘リ他地方ニハナイコトデ頗ル珍ラシイト思フ、人吉町カラ數里ノ奥ノ村々ニハほていちく即チこさんちウガ澤山野生シ自然其筍ガ多産スルノデ遂ニ此千筍ヲ製スル勢ヲ招致シタモノデアラウト思フ〕

第一法 コレハ賣出用ノ正式ノ仕方トモイフベキモノデ私ノ親友デアアル球磨郡岩野校長家城谷生君ニ頼ンデ調